

(再開 午前10時55分)

議長（萩原由一）

休憩前に引き続き会議を開きます。

5番、丸山邦久 議員。

(「はい、議長。5番。」の声あり)

(5番 丸山邦久 議員 登壇)

1. 道の駅ファームス木島平の今後の運営について

5番 丸山邦久 議員

それでは、通告に基づき、私の方から3点ほど質問させていただきます。

1点目、「道の駅ファーム木島平の今後の運営について」。

さきの9月議会の産業建設常任委員会において、道の駅ファームス木島平運営改善に関わる今後の進め方（案）と題する方針案が示されました。その中に、社会情勢や住民ニーズの変化に対応した道の駅として再生するため、既存施設の解体及び新設を視野に入れた中で、市場性の有無や事業化の可能性の把握など必要な機能やアイデアなどについて、提案を広く民間から聴取するとありました。

そこで質問いたします。

1点目、ファームス木島平を廃止して、新しい施設を建設することを意図しているのでしょうか。

2点目、先日、群馬県の「道の駅 田園プラザ川場」にですね、行きました、見学をしてまいりました。私が褒めると、珍しいなと思われるかもしれませんが、とても素晴らしい道の駅でした。何が素晴らしいか、どうしてそうなったのか。説明としては、社員の意識改革、村職員の意識改革を、村長並びに運営会社の社長が徹底して行った結果である、というふうにおっしゃっていました。

川場村の理念「農業+観光」非常にわかりやすいですね。実現するために、川場村の村長と運営会社の社長が強いリーダーシップを発揮して、年間190万人が訪れ、20億円を売り上げるまでになっています。

木島平村に比べて人口・面積ともに8割程度。大変小さな村です。森林率も、木島平も川場村も約80%。山ばかりの村です。立地もどんづまりといたしますか、大した良い場所にはない。こんな小さな村が新しい市場を作り出し、市場性があるかないかではない、市場を作り出し、並みいる道の駅の中でダントツの顧客満足度1位を続けています。多くの川場村村民が知恵を出し合い、額に汗して、この状況を作り出しています。本当に頭が下がる思いでしたね。

日碁村長は、強力なリーダーシップを発揮して、田園プラザ川場のような道の駅を作る気持ちはあるのでしょうか。

以上、2点伺います。

議長（萩原由一）

日碁村長。

(村長「日碁正博」登壇)

村長（日碁正博）

はい、それでは、道の駅ファームスについてのご質問にお答えいたします。

最初、1点目の今後施設を廃止して、新しい施設を建設することを意図しているのかということですが、農の拠点としてのファームス木島平を廃止して、新しいコンセプトの施設を作るのかということも含めてだというふうに思います。

お示しました今後の進め方の（案）は、当初からの課題であった施設の屋根の老朽化の対応も議論していただいておりますが、その部分の改修をしたとしてもまた、加工室の設備も多く備えておりますので、近い将来、改修や設備の更新が必要になってくるという課題もご指摘いただいたところで

あります。そのようなご意見を考慮し、転換したものでございます。

現実では、全く新しいものを建設していくかどうかは未定であります。これまでに予算をかけてきた部分もあります。目的とする機能、具体的に管理運営する事業者が使いやすい施設とすることが必要でありますので、今後、村民の皆様も含めてご意見を伺う場を持ちながら、検討していきたいと考えております。

2点目の強いリーダーシップにより、川場村のような道の駅を作る気持ちはあるかというご質問であります。

東京から2時間という立地もあり、東京都世田谷区との交流による地域活性化を目指した村づくり事業の一環として、平成5年に整備をされた施設であります。この施設の効果として、就業機会の拡充で、地場製品のPRや村内消費の促進、交通ターミナル機能としての活用、新たな特産品の開発と販売促進の実現といった、先進的な施設というふうに理解をしております。村だけでなく、民間の活力をうまく活用しているところは参考になると考えております。

施設改修など課題はありますが、商業施設を誘致するなど、販売力や資金力、宣伝力のある民間企業との連携により、多くの皆さんが集まり親しめる場所にしていきたいと考えておりますので、村民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

議長（萩原由一）

丸山邦久 議員。

再質問

5番 丸山邦久 議員

今の答弁をお聞きして、日墓村長らしいなというふうに私は思いました。

なんとなく人任せ。民間企業任せで物足りない。村長が主体性を持ち、リーダーシップ発揮しなければ、この事業は良い成果を生まないと思います。

木島平の中で最も人材が豊富にいるのは、紛れもなく村役場だと思いますよ。

まず村長が覚醒し、目を覚ますってことです。副村長が続き、村職員が意識改革をしなければならぬと思いますが、村長はどうお考えでしょうか。

議長（萩原由一）

日墓村長。

(村長「日墓正博」登壇)

村長（日墓正博）

はい、道の駅ファームスにつきましては、これまでも長年の課題であります。これについては担当課も含めて、職員の中でも様々な議論を進めてきたものであります。

施設の改修ということは前面にありますので、それを含めて、先ほど申し上げた民間企業の誘致ということではありますが、これだって黙っててくるわけではありません。しっかりと村側からのアクションを起こさなければ、それは実現できないわけでありますから、それも含めて、これから進めたいというふうに申し上げたところであります。

議長（萩原由一）

丸山邦久 議員。

2. 観光施設の譲渡について

5番 丸山邦久 議員

決意表明をいただけたらありがたいなと思ったんですが、されないようなので次に行きます。

2点目、「観光施設の譲渡問題について」であります。

10月に、スキー場とパノラマランドの譲渡に関する基本合意書が民間企業との間で交わされました。また、11月25日にやまびこの丘公園と馬曲温泉のプロポーザルが行われました。

そこで伺います。

1点目、やまびこの丘公園と馬曲温泉のプロポーザルは、議会からの視聴要請にもかかわらず、密室で行われたわけであります。隠されると何か不都合なことがあるのではないかと勘ぐってしましますが、非公開にした理由は何でしょうか。

2点目、スキー場とパノラマランドの譲渡金額は、限りなく0円に近い。こんな金額で売却せざるを得なくなった原因は何でしょうか。

3点目、観光（株）の代表取締役社長である村長は、この問題について反省するところはないんですか。責任を感じてるところはないんでしょうか。

4点目、60町歩という広大な土地を無償譲渡するのに、相手先の信用調査もしていなかった。よほど信頼のおける企業なんだろうかと私は推測するわけですが、村民からも不安視する声が私の方に寄せられております。村民の不安を払拭するために、村長が信頼する根拠をお聞かせください。お願いします。

議長（萩原由一）

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

村長（日墓正博）

それでは、観光施設の譲渡についてのご質問であります。

2点目以降について、お答えをさせていただきます。

2点目、3点目のご質問ですが、今回の譲渡額の基になる評価に至ったことについては、木島平スキー場とパノラマランド木島平を含めた、村の観光施設の運営を担う第三セクターの経営状況が厳しい中、新型コロナにより更に経営状況が悪化したことや、老朽化した施設への将来的な維持管理費の増嵩などにより、このような評価になったというふうに認識をしております。

このような結果になかったことにつきましては、時代の流れとして、行政が時代に対応した施設として運営できなかったことも含め、村と会社の代表である私の力不足の部分もあったというふうに、反省をしております。

4点目の譲渡先が信頼できる企業かどうか、根拠という質問であります。

村としては、民営化方針を打ち出した中で、真っ先に声をかけていただき、様々な協議を進めた中での結果と捉えております。今回の民営化については、単なる施設の売買ではなく、事業継続を前提として協議を続けてきております。譲渡予定会社との協議を重ねる中で、経営方針や事業に対する考え方は村にとって、望ましいものというふうに考えております。

また、直近の決算から、資金的には資力があり、新たな取組への決断の早さや、それを支えるスタッフが充実しているなど、総合的に判断をしております。

また、スキー場運営は初めての事業と聞いておりますが、美容外科業界でも特出した実績を上げられております。あわせて、スキー場経営者のアドバイスをいただき、進めていただいているということも聞いております。

スキー場の再生を通して、地域活性化の目的を共有しているものと考えております。行政の力だけではできないことを民間企業と共同で、地方の活性化を目指していく事業でもあります。

コロナ禍、全国的に経営が厳しいスキー場や観光施設がある中で、国内の企業で大きな資本を持ち、顧客サービスにおいても特出した企業に事業をお願いでき、村の企業として将来的にも期待が持てる

というふうに考えております。

村としては、今後も事業の継続と官民連携した地域活性化に取り組んでまいりますので、ご理解をお願い申し上げます。

1の件については、産業課長に答弁をさせます。

議長（萩原由一）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

それでは、私の方から1点目のご質問についてお答えをいたします。

馬曲温泉公園とやまびこの丘公園の募集については、それぞれ1社ずつのご応募をいただき、11月25日に審査委員会を開催しております。

ご質問の、なぜ非公開として行われたかということでございます。

今回の選定については、契約に至る前段階の優先交渉者を選ぶための委員会としております。審査会での提案事業とともに、応募者の会社情報も含まれ、非公開情報も含まれる可能性もあることから、あらかじめ募集要項の中で非公開とさせていただき、募集をしたものでありますので、ご理解をお願いいたします。

議長（萩原由一）

丸山邦久 議員。

再質問

5番 丸山邦久 議員

はい、1点目の答弁について、まずお伺いします。

村財産なんですから、公開でやるべきでないかなと私は思っております。村民は知る権利があると思いますが、いかがでしょうか。

つぎ、2点目です。

今の村長答弁の中で、直近の決算状況を見て総合的に判断しているとおっしゃいました。けれども我々の方は、全然見せてもらってないわけでありまして。何をもちて判断すればいいのか正直困ってしまうわけですよ。遅ればせながら、相手先の信用調査を今やっているようですが、手続きに問題はなかったのか。それと、決算書を見て判断できる人が村の中にいたのか、その点を伺いたい。

3点目、日本最大手の信用調査会社に調査を依頼していますが、調査書は議会の方に開示してもらえますでしょうか。

そして4点目、結果として、やまびこの丘公園まで含めると、71町歩、実に71万平米という村有財産を失うわけです。今村長は、自分に責任があるとおっしゃった。観光（株）の代表取締役社長である村長は、村民に陳謝してけじめをつけるべきであると考えますが、いかがお考えでしょうか。

以上、4点あります。

議長（萩原由一）

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

村長（日墓正博）

決算書と申し上げましたが、貸借対照表の中で、キャッシュ等の確認をしたということでもあります。

それから土地の民間譲渡ということですが、村で所有しているよりも、より価値のある形で活用してもらえるとということであれば、将来にとってプラスだというふうに考えておりますので、よろしく申し上げます。

その他の点については、担当課長に答弁させます。

議長（萩原由一）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

それでは、私の方から1点目、2点目の再質問についてお答えをいたします。

まず1点目、公募プロポーザルの審査について、公開でやるべきではなかったのかというご質問でございます。

先ほども申し上げたように、応募者の情報の中に非公開情報も含まれる可能性が想定をされておりましたので、あらかじめ募集要項の中で定めまして、非公開という形にさせていただいております。

こういったプロポーザル審査の難しい点の一つの課題ではあるとは思いますが、各自治体の事例も参考にしながら、ちょっと今回の募集要項を定めたわけでありまして、自治体によって取扱いについては様々でございます。やはり、契約まで全ての内容について非公開にしているところ、また契約段階で改めて公開をしているところというような形です。各自治体の考え方が様々でございます。

今回、私どもは、こういった懸念もされることを考慮いたしまして、非公開ということでやらせていただきましたので、ご理解をお願いいたします。

2点目、決算状況を開示できるのかというお話でございます。

こちらについては、先方の方で公開している情報、非公開の情報等もありまして、確認をしております。公開ができる情報については、議会の方にも改めてお示しをしていきたいというふうに考えております。

よろしく申し上げます。

再質問（答弁漏れのため）

5番 丸山邦久 議員

3点目の信用調査企業の調査書は議会に示していただけるんですか。今、ちょっと聞き漏らしちゃったんだけど。

あとそれから、村長がけじめをつける気があるのかないのかって答えがないと思うんだけど。ないってことですね。返答がないということは。

議長（萩原由一）

暫時休憩します。

（休憩 午前11時14分）

（再開 午前11時16分）

議長（萩原由一）

休憩前に引き続き会議を開きます。

日碁村長。

（村長「日碁正博」登壇）

村長（日碁正博）

はい、責任を・・・という話であります、私の立場とすれば、コロナの状況になった、スキー場運営だったり、三セクの状況等、それをより良い形で再生させる、それが一番の責任の取り方だというふうに考えておりますので、今後ともご理解ご協力をお願いしたいというふうに思います。

議長（萩原由一）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

それでは、再質問の中の、現在手続きを行っている信用調査の書類のお話でございます。

これについては、議会の方に開示できるかどうか、ちょっと再度確認をさせていただきたいと思っております、できるようであれば、またお示しをしていきたいというふうに考えております。

議長（萩原由一）

丸山邦久 議員。

再々質問

5番 丸山邦久 議員

信用調査会社の調査書というのは、村で取ってるわけですから、議会に開示してもらっても何ら差し支えないんです。相手側の同意を得る必要はないんですよ。何でそこで相手側のことをおもんばかって確認しなきゃいけないのか。

要は、その調査資料という情報を村はお金で買ってるんですよ。で、それに対して、あそこには出さな、ここに出すなっていうのは、調査される側にはないんですよ、権利が。それでもなおかつ、出せないってのはどういうことでしょうか。

議長（萩原由一）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

それでは、再質問にお答えいたします。

すいません、私の言葉が少し足りなくて申し訳ございません。

こういった情報について、議会に開示できるかどうか、そういった適正な処理かどうかということも譲渡先に確認するのではなくて、そういった書類が開示できる資料かどうかを確認させていただきたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

議長（萩原由一）

丸山邦久 議員。

3. 木島平村の産業振興策について

5番 丸山邦久 議員

なんとも歯切れの悪い答弁だなと思ってしまいます。

3番目の次の質問に移ります。

「村の産業振興策について」。

8年間の日基村長の任期中、コロナ禍、原油高、雪不足、言い方悪いですけどこれを言い訳にして、

産業振興の実績はほとんど上がってないように見えます。

産業振興で8年間の実績は何でしょうか。

村全体で年間40億円、8年間で320億円近い予算を執行しているわけでありまして。知恵を使えば、何か一つぐらいの産業が起こせたんじゃないか、そんな気がしてならないわけです。それだけのお金を使いながら成果が上がってないように見えるわけでありまして、これはやる気がないんじゃないかと言われても仕方がないと思います。

今後、どのような振興策を行うつもりか、具体的な振興策を答弁いただきたいと思います。

議長（萩原由一）

日墓村長。

(村長「日墓正博」登壇)

村長（日墓正博）

はい、それでは、村の産業振興についてであります。

先ほど、ご質問の中で年間40億というふうにありましたが、これは福祉や教育、消防、道路、水路、上下水道などのインフラ整備などを行う、村の予算の総額だというふうに思いますが、その全てが産業振興に充てられたということではありませんので、誤解のないようお願いしたいというふうに思います。

現に、村民の皆さんの生活を支えている農業や観光などの維持・発展を図ることも産業振興であります。農産物のブランド化や高齢化する農業を継続するための新規就農者支援を行ってまいりました。

コロナ禍は言い訳でなく、観光業では現実に大きな打撃となっており、それを支えるのも産業振興であります。

また、新たな事業を村で起こすことも産業振興であります。平成29年度以降、創業支援補助金制度を活用し、今年度の予定も含めて7件の創業を支援してまいりました。今はそれぞれ小さな事業であります、その中から雇用の拡大など、大きく発展する企業が育つことを期待しております。

また、現在進めております観光施設の民営化も、言わば企業誘致であり、新たな投資を村に呼び込み、将来的に事業を拡大することで村の活性化や雇用の創出に繋がるのが産業振興というふうに考えております。

これらも含めて、また様々な振興策を考えていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

議長（萩原由一）

丸山邦久 議員。

再質問

5番 丸山邦久 議員

今の村長の答弁をお聞きして、観光施設の民営化、私から見れば、もう村でこれ以上やりきれないから譲渡したというふうに思うわけですが、これが企業誘致っていう認識は私今までなかったですね。確かに企業が来るんだから企業誘致と言えるかもしれませんが、企業誘致っていうイメージは私には持てませんでした。今後ちょっと認識を改めさせていただこうかなと思っております。

今の答弁をお聞きしてね、今朝、役場庁舎に来るときに役場の方にてっかい虹がかかっておりまして、すごく明るい気分です。来たんですが、なんか今の答弁聞いたらすごく暗くなっちゃいました。

私が聞きたいのは、3期目の続投を決めている日墓村長が、これからね、4年間、4,300人の村民をどのようにして豊かにしていくか、それを聞きたかったわけですよ。それは何も出てこない。ちょっと残念すぎちゃって話にならないですね。

本当に何か考えてるんですか。答弁をお願いします。

議長（萩原由一）

日臺村長。

（村長「日臺正博」登壇）

村長（日臺正博）

はい。先ほど申し上げましたとおり、新たな事業を起こすのも産業振興であります。現在、現に自分の生活の糧としている産業をしっかりと支えるということも重大な、大きな産業振興だというふうを考えております。

立地等を考えれば、大きな企業の誘致とか、そういうことも考えられますが、村ではなかなかそういうのが難しい。そうであれば、村内でそういう仕事を持って村に入ってくる、そういうものを、そういう人を、移住定住に絡めて呼び込む、それも産業振興というふうに捉えています。

先ほどありましたとおり、観光施設の民営化についても、企業誘致、言ってみれば村に新たな資本を取り入れるということ言えば、大きな企業誘致になるだろうというふうに思います。そこから更に様々な分野に事業を拡大していく、そんなことを期待しております。

それらも含めて、道の駅ファームス木島平がこれまでも何回か議論になっておりますが、そこでも新たな産業が起こればというふうを考えておりますので、よろしく願いいたします。

議長（萩原由一）

以上で、丸山邦久 議員の質問を終わりにします。

（終了 午前11時25分）

議長（萩原由一）

ここで暫時休憩といたします。

再開は、午前11時35分をお願いします。

（休憩 午後11時25分）